

J R 四国 労組 ニュース

2024年2月13日 (No.19) 発行責任者/大谷 清 編集責任者/和田 庄平

第37回定期本部委員会開催!

2024春季生活闘争方針を満場一致で決定!
ベア 10,000円 要求へ!
労働時間の短縮及び制度改善



J R四国労組は2月9日(金)、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」にて第37回定期本部委員会を開催。本部委員及び特別本部委員、傍聴者が集結し、来賓含め約100名出席のもと「安全・安定・安心輸送の確立」「2024春季生活闘争」「政策課題解決」など当面の取り組みについて満場一致で決定した。



大谷執行委員長

冒頭、執行部を代表し挨拶に立った大谷執行委員長は、日夜、職場で奮闘する組合員に敬意を表するとともに、「2024年度グループ決算において、最終利益の黒字見込みが発表されるなど明るい兆しが現れている。一方で、目下最大の課題である『人財確保』に向けて労使一体で強い危機感を持つ必要があり、組合員の思いを結集した『ユニオンビジョン2023』を活用しつつ、その実現に向けて取り組む」と述べ、「今春闘を通じて、離職に端を発する要員不足、業務量の増加という負のスパイラルをあらゆる手段で早急に断ち切るべく、J R四国グループで生み出す価値・サービスに見合う労働条件・労働環境となるよう、『人財への継続的な投資』を強く意識した春闘交渉を行う」と決意を語った。

議事では、執行部より定期大会以降の経過、当面の取り組みを提起。各支部・各専門部会・青年女性会議を代表する11名の本部委員・特別本部委員より春闘方針、離職・要員問題、コロナ禍における組合員に資する一時金の要求等に関する質疑を受けた後、すべての議案が満場一致で可決され、最後に2024春季生活闘争を闘い抜き、組合員の明るい未来をつくりあげるべく、大谷執行委員長の「団結ガンバロー」で定期本部委員会を締めくくった。

ご来賓の皆様



連合香川 福家会長



四交連 砂田議長



JR 連合 相良局長

以上